

2020年度

【一般入試(手続期間長期型)】

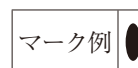
3 限 目

注 意

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 問題冊子は1部、解答用紙は1枚です。
3. 出題科目、ページおよび選択方法は、下表のとおりです。

出題科目	ページ	選択方法
物理基礎・物理	1 ～ 6	解答科目は、選択できる科目を受験票で確認のうえ、選択しなさい。
化学基礎・化学	7 ～ 12	
生物基礎・生物	13 ～ 21	
国 語	国語1～国語20（うしろから始まります）	

4. 解答は全てマークセンス方式です。マークは黒鉛筆(シャープペンシル可)で右の例のように正しくマークしてください。



5. 解答用紙には解答欄のほかに次の記入欄があります。

(1)受験番号欄

受験番号を受験番号欄の上欄に算用数字で記入し、さらにその下のマーク欄にマークしてください。

(2)解答科目選択欄

解答する科目を1つだけ○で囲み、さらにその下のマーク欄にマークしてください。

※受験番号および解答した科目が正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。

6. 記入したマークを訂正する場合は、プラスチック製消しゴムで完全に消し、改めてマークしてください（消しくずを残さないこと）。
7. 解答用紙は折り曲げたり、汚したりしてはいけません。
8. 解答用紙の※印欄はマークしてはいけません。
9. 問題冊子と解答用紙にページの落丁・乱丁および印刷の不鮮明な箇所や汚れなどがある場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
10. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

国語

(解答番号

(1)

)

(57)

)

I

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(六〇点)

明治の初期に日本を席捲した西洋の影響の潮流は、ほとんどあらゆる日本人を呑みつくさんばかりだった。シンシユの気性にとんだ思想家たちは西洋文明の優越性を高らかに叫び、天皇自身、即位に際して発した御誓文で、彼の治世の間に「智識ヲ世界ニ求め大イニ皇基ヲ振起」せねばならないと宣言した。その後、驚くべき短期間のうちに、日本人は西洋の技術ばかりか——彼らはたちまち技術に習熟した——欧米の政治制度や、ついには文学までも学び取った。「蛮学」を採用することに疑いを抱いた保守主義者もいたが、大部分は躊躇なく新しい神々の前に

I

。森有礼という政府高官は、極端にも、

日本語を廃止して英語を採用するべきであると主張した。ある文筆家は、西洋がこれまでに成し遂げた偉業に深い印象を受け、日本人は肉体的にも知能的にも西洋人に劣っていると論じたあげく、解決策として、日本男子がすべからく妻を離別し、優れた体躯と知性に恵まれた西洋女性と結婚することを奨励した。このような極論を受け入れかねた人々も、

II

新しい風潮に従った。

あらゆる面で、日本人はできるかぎり急速にヨーロッパ化することに急で、ふつう伝統の保存には何の関心も示さなかった。近代的改革を行なう資金作

りのために、日本美術の至宝が外国人向けに売りに出され、日本建築の

III

ともいべき多くの建物が、進歩という悪魔の脅威にさらされた。

例えば、『京都見物独案内』という一八八五(明治十八)年に出版された京都の建築美のガイドブックは「織工場西洋造にして美麗なり、中学校西洋造にして頗る美観なり、勸業場西洋造にして尤も美観なり」とのべ、最高の賛辞を与えられているのは当時流行の洋式建築ばかりである。新たに輸入された文明とそれに伴うさまざまなものは、日本古来の優雅さに対しても優位を得た。天皇と皇后は洋服姿で写真に写り——天皇は軍服で、皇后はクリノリンのドレスで——そして、一八八〇年代前後の上流社会の人々は、夜ごと東京の鹿鳴館というヴィクトリア朝風の建物につどって、自分たちがワルツを修得したことを外国人に誇示して見せた。

文学や美術の分野でも、西洋の影響はそれに劣らず

IV

だった。明治天皇の即位で新時代が明けてからわずか四十年後には、すでに都から遠く離れた村々にすら、例えば石川啄木のように、イプセンを読み、聖書を引用し、ギリシャ神話について語り、オルガンでワグナーやメンデルスゾーン

を奏で、無政府主義や社会主義に興味を抱く若者たちが現われた。若い画家たちは、好んで油絵を描くようになった。歌舞伎役者は舞台に西洋的な考え方を導入し、芝居がはねると、横浜のハイカラな洋品店で買ったフロック・コートと山高帽子に着替えるのだった。

日露戦争は日本を世界の列強の地位に押し上げた。武士が甲冑^{かちゅう}で戦ったところから数えてわずか四十年足らずの国が、陸上でも海上でも、近代ヨーロッパの強国を打ち破ったのである。他のアジア人とはタイショウ^Bウテキに、日本人は世界でヨーロッパと同等の法的地位をかなりの程度まで享受できるようになった。実際、伝統的な日本はほとんど影もかたもなくなくなってしまうのではないかと考えた外国人もいた。だが、彼らは、日本人が過去を保持する驚くべき能力を持っていることを忘れていたのだった。

日本は、過去千年間の人類の酔狂な好みが長い年月の間に円熟し、尊厳を帯びるに至ったものの博物館である。今日、日本の宮廷の堂々とした礼典の音楽である雅楽は、かつて八世紀の中国宮廷のはやり歌だった。長崎の天主堂はヨーロッパのゴシック教会建築の十九世紀における復興の一例だが、伝統的仏教建築の傑作と並んで、国宝に指定されている。大陸でははるか昔に失われた中国の書物が数多く日本で発見されてきたし、将来英国のエドワード朝風のランプの笠^{かき}やテール・クロスを研究する者は、研究資料を求めて日本に旅しなければならなくなるかもしれない。伝統的日本美術は絶滅しつつあるとくり返し予言されるようになって久しいが、実際は、最後の芸術家と見なされた人物が死ぬと、必ず後継者がどこからともなく出現して、彼の仕事を継承する——文楽人形の頭造り^{かしづ}、薬師寺の祭典に用いる造花の飾り造り等、みなそうである³。

日露戦争以前に起こった変化もけつして小さくはなかったが、その後の、とりわけ一九四五（昭和二十）年以來の驚くべき変化に比べれば、まったく取るに足らない。第二次大戦後、もつとも旧弊な習慣や制度さえ、この一大変化の影響を受けた。お遍路さんたちは昔ながらに四国の八十八の霊場を巡って、重く疲れた足を運んでいるが、たぶん彼らは、旧來の巡礼のショウヅク^Cの上に、雨を避けるためのビニールのレイン・コートをまとっている。現代風な茶道の流派の茶会に招かれた客人は、電気ミキサーで泡立てた茶を供されて

V

かもしれない。現代華道の展示会では、花をまったく用いないか、さもなくば、蘭^{らん}や百日草のような外国種の花だけがことさらに飾られていることが多い。しかし、ある意味で非常に興味深いのは、ビニールのレイン・コートでも、電気ミキサーでも、百日草でもなく、遍路や茶道や華道が、今日でさえ日本社会の構成要素として認められている事実であろう。

今日の日本は、過去がいまだに

VI

されずに生きつづけている現代国家である。通りを行けば、総ガラス張りの工場と隣り合わせに、何世紀も昔の日本人が見てもさほど驚きはしないような家々が並んでいるし、映画館やストリップ劇場と同じ区画に、十八世紀の人形浄瑠璃が厳密に当時の脚本にのっとって演じられている劇場がある。けばけばしい広告やパチンコ屋が立ち並んだ東京の現代的な街路から、百年前とほとんど変わらないリョウウテイ^Dに足を踏み入れることもあり得る。内部には、素朴で優雅な畳で覆われた床と、一幅の書画や生け花で趣向をこらした床の間がある。そこでは、丈の低い塗りの机が唯一の家具である。食物を供するのは和服を着たウェイトレスで、客の盃^{さかずき}が空にならないように、注意深く気を配っている。食物そのものは、

恐らく百年前と大同小異であろう。

バスや、オートバイや、トラックで混乱する街路を後にして、こうした料理屋へ入って行くと、まるで現在から過去へ旅したような気持ちになるかもしれないが、それは誤りである。⁴料理屋は博物館ではない。現代日本人の好みを表わしているものである。伝統に反抗的な若い世代も含めて、今日のたいがい日本人にとって、そうした場所の方が、大部屋に椅子とテーブルがむき出しになった紋切り型の西洋風レストランの食事よりも幸せに感じられる。日本人の中にも、ほぼ完全に西洋風の生活をしようとしている人々もいる。彼らは東京の現代的なアパートで、日本の他の地域では知られていない贅沢^{ぜいたく}を手に入れる——プレイバシーがそれである。極端な連中は、いまだかつて和服を着たこともなく、米の味さえ嫌いだなどといったりする（その口調には、一抹の誇りもなくはない）。しかし、そんな人々は比較的少数であり、⁶

A

、過去の多くの例によれば、⁷齢四十に達するまでには、彼らの多くも伝統的な日本の生活に喜びを見出すようになることだろう。

少なくとも都会では、ごく典型的な生活様式は日本人のいわゆる「和洋折衷」である。この折衷とは、必ずしも東西の長所を体现しているわけではなく、原理的にいえば、西洋の事物の便利さにいしえの日本以来身についたところ楽しさの混じり合ったものである。例えば、裕福な家庭では、訪問客は堅苦しくしつらえられた椅子と厚いテーブル・クロスで飾り立てられたテーブルのある客間に招じ入れられ、コーヒーとケーキで歓待されるが、そこではなくなかつろぐというわけにはいかない。家族とほんとうに親しい友人なら、親しく日本間に案内され、ときには背広を浴衣に着替えるように勧められるだろう。客を歓待する現代的な主人は、各種のチーズやヨーロッパ産の葡萄酒^{ぶどう}の^あかもしれない。だが、彼は同時に、塩づけの魚や日本の漬物の味にかけても、本職はだしではないというわけではない。そして、パリ風の衣裳^{いしょう}を身につけた女主人は、恐らく部屋の片隅に腰を下ろしたまま、一言も会話に加わろうとはしないだろう。

もちろん、小都市や田舎の村々では、西洋はまだそれほど日常生活に食いこんではいない。農夫は日本の衣服を棄ててズボンとシャツを好み、オートバイに乗って野良仕事に出るかもしれないが、家と、食物と、隣近所との関係は、たぶん彼の祖父が示した模範をそのままなぞったものである。彼の日常生活は、依然として家族制度の下における責任感に支配されているし、選挙で誰に一票を投ずるかは、自分自身の利害得失を考えての結果というより、むしろそうした^Ⅶ関係によって決まる。だが、農家自体に過去半世紀間の大きな変化の徴候がほとんど見出せないとはいっても、その徴候があることには変わりはない——玄関には、ぴかぴかのプラスチックの靴が草履や下駄^{げた}と並んでそろえてあるだろうし、ラジオからはモーツァルトのバイオリン・コンチェルトか何かが流れているかもしれない。

⁸このような本質的に異なった要素が結合したさまを目のあたりにすると、すべての女性が和服をまとうていないことに失望した多くの外国人は、日本人は自分自身の事物にもっと執着するべきだと、決まりきった忠告を口にする。実際は、日本人が過去の衣服や制度に対して抱いている愛着にほとんど独特

のものがあつたことを、彼らは理解できないのである。西洋人は過去の事物をもつて過去のものとして考える傾向があり、通常は十八世紀の衣服を着たり、驚^がペンで字を書いたり、蜜酒を飲んだりすることはない。だが、和服を着た日本婦人は、要するに十八世紀の衣裳をまといつてゐるのであつて、それは椅子の上ではなく、床の上に座るように作られた衣裳なのである。一方、背広姿の日本人男性も、ズボンの折り目が間違ひなく消えてしまふような座り方で座らなくてはならない料理屋へ、喜んで出かけて行く。日本婦人はすべからず和服を着るべしという意見の外国人は、むしろその主張を棄てて、高価で、ひどく着方が複雑で、夏は耐えがたいほど暑く、身動きが窮屈で、洗濯するたびに完全に解体してまた縫ひ直さなくてはならないような衣裳に彼女たちが今も夢中になつてゐるという事実こそ、驚きの目を見張るべきである。もし現代の日本人がもつと「論理的」だつたら、彼らはとうの昔に、召し使ひのいない時代向きで、バス旅行にもはるかに便利な衣裳を採用したはずである。

今日の日本の至るところにある古いものと新しいものとのさまざまな

VIII

と折衷は、日本人の精神や感情についても見出される。

B

、日本の矛盾の内外一致性ともいふべき現象である。十九世紀のはじめ、日本人がはじめて西洋の大砲や機械に興味を引かれたころ、佐久間象山は「東洋道德、西洋芸術、精粗^{のこず}不遺、表裏兼該^{かねがね}」と主張した。伝統的社會の本質を保存する一方、外国の科学から現実には有益なものを借用したいという意図を公式化した言葉である。この言葉を実現可能と考える者もいるかもしれない。西洋の数学や化学を学んだ者が、どうして同時に儒者であつてはならないのか。事実、二つの思想体系を結合させようと努力した人々もいた。だが、彼らは科学を学ぶために持てる時間のすべてを費やし、儒教の古典を考究する閑^{ひま}はもうないことを知つたのである。

C

、苦勞して科学的知識を身につけようと全力を傾けた人々にとって、旧弊な学者たちが実用的で機械的なことがらに示した蔑視の念は我慢がならなかつた。当然、彼らの世界観は根底から新しい學問の影響を受けた。それは単に「技術」の分野に押しやつてしまふ性質のものではなかつたからである。伝統的な教養を保存し、奨励しようとした政府の努力をよそに、外国に実用的な知識を求めた人々も、ついには精神的文化を同時に深く吸収するようになった。

例えば、日本人は西洋文學の輝かしい成果を発見し、明治初期に端^{はな}を發した細々とした翻譯の小川は、徐々に膨れ上がつて一大

IX

となつ

た。欧米のほとんどすべての重要な作品は日本語に訳され、時にはひとつの作品に三つか四つの異なつた翻譯版が試みられた。今日では、外國語を知らない者が母國語でより多くの世界文學を読めるという点で、日本語にヒケン^Eし得る言語はないといわれる。彼らが西洋の小説を好むのは、外國人が内輪でどのような話をするのか、どのような恋愛をするのかと好奇心に驅られてゐるからばかりではない。英國人やロシア人が書いた書物から、かえつて日本人自身について多くを教へられたことを理解してゐるからである。例えば、ヴェルテルのような主人公が自分は愛人の「奴隸」であるといつたり、あるいは他の主人公が自然を「征服」する意志を表明したりするとき、日本人の讀者はそうした感情表現がかつて馴染^{なじ}みのなかつたものであることを知つた。たとへ日本人がその感情を完全には共有し得なかつたとしても、こうした小説の多くは、伝統的な日本文學とは異質な感動で彼らを揺さぶつた。そして、外國の

見本を模倣した結果、やがて古い慣習から解放されるようになったのである。

厳格な武士の家に生まれ、少年期には儒教に基づいた教育を受けて育った森鷗外（一八六二—一九二二）は、現代日本文学形成期の重要な人物の一人である。明治維新に引き続いて古い封建制度が崩壊した後、鷗外の父親は息子を東京へ伴い、医師となる準備の一端としてドイツ語を学ばせた。一八八四（明治十七）年から一八八八（明治二十一年）まで、鷗外はドイツで医学を学んだ。ドイツ滞在中、彼は医学のみならず、ヨーロッパの文学や哲学を読み、一八八九（明治二十二）年には一卷のドイツ詩の翻訳を出版した。翌年、彼はベルリンの日本人留学生とドイツ人の踊り子との悲恋物語、『舞姫』を書いた。鷗外はそれを「私小説」と呼んだが、その強い自伝的な調子は、ヨーロッパ文学の影響下で、彼が非個人的な日本の小説の伝統からどれほど遠く離れた場所にいたかを示していた。『キタ・セクスアリス』と題された彼の後の作品は、自分の個人的な生活を包み隠さずに語ったことで読者に衝撃を与えた。

D、鷗外が長い間暗黙のうちに否定していた伝統文学の価値は、一九二二（大正元）年に乃木将軍と夫人が明治天皇に殉じて自殺を遂げたことを知ったとき、ふたたび彼の作品の表面に浮かび上がった。殉死という劇的な行為は、かつて鷗外自身が受けた同じ儒教教育の産物だったが、彼は深く心を動かされ、以後、古い道徳を称揚する小説ばかり書くようになった。

科学的学問と人文的学問双方に亘^{わた}って伝統と訣^{けつ}別^{べつ}したという点で、森鷗外は珍しい人物だった。医師としては、生涯の最後まで——ついには日本帝国陸軍軍医総監にまで出世した——西洋の技術を体現しつつけた一方、精神的なことがらについては、彼はますます過去に引きつけられていった。だが、先祖の名誉訓に従うことを選んだ百年前の武士の物語を書いているときでさえ、鷗外は現代的な心理的洞察と、彼自身が好んで選んだ新しい文体を用いざるを得なかった。つまり、彼は現在の意識をもつてはじめて、過去に帰ることができたのである。¹⁰

（ドナルド・キーン、足立康・訳『果てしなく美しい日本』より。ただし出題の都合上、表現を一部改めた箇所がある）

問一 二重傍線部A～Eのカタカナを漢字で書いたときに、その漢字と同じ漢字をふくむものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つ選びなさい。

A ① シンリョクの候

(1)

D ① 首相カンテイ

(4)

② ルイシン課税

② 二人の主張にケイテイはない

③ 事件のカクシン

③ フタバテイシメイ

④ シチフクジン

④ フウテイが悪い

⑤ シンクの優勝旗

⑤ ボウハテイ

B ① シンラバンシヨウ

(2)

E ① ヨウケンを満たす

(5)

② ザンシヨウに染まる

② ヒツケンの名画

③ ケイシヨウ略

③ 自説をケンジする

④ 論功コウシヨウ

④ 東京チケン特搜部

⑤ レンセンレンシヨウ

⑤ ソウケンに担う

C ① イツキヨシユイトウソク

(3)

② 心のアンソクを得る

③ ソクメンから援護する

④ 身柄をコウソクする

⑤ モクソクを誤る

問二 傍線部1「席捲せつけんした」、傍線部5「紋切り型の」、傍線部6「一抹の」、傍線部9「端を発した」の本文中の意味として最も適当なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つ選びなさい。

傍線部1 ① 力付けて援助した

③ 弄んだ

④ 勢力範囲にした

⑤ 勢い付かせた

傍線部5 ① 特殊な

② 俗っぽい

③ けばけばしい

④ お定まりの

⑤ 見苦しい

傍線部6 ① わずかばかりの

② 取るに足りない

③ 並々ならぬ

④ それなりの

⑤ 空むなしい

傍線部9 ① 完成した

② 一度廃れた

③ 流行した

④ 始まった

⑤ 変化した

(9)

(8)

(7)

(6)

問三

空欄

I

Ⅸ

に入れるのに最も適当なことを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つ選びなさい。

空欄Ⅰ

① 目を覚ました

② 一肌脱いだ

③ 頭を下げた

④ 範を垂れた

⑤ 一矢を報いた

空欄Ⅱ

① 及ばずながら

② 性懲りもなく

③ 勝手自儘に

④ けんもほろろに

⑤ われもわれもと

空欄Ⅲ

① 金の卵

② 金の蔓

③ 試金石

④ 金字塔

⑤ 資金源

空欄Ⅳ

① 悲劇的

② 圧倒的

③ 計画的

④ 投機的

⑤ 暫定的

空欄Ⅴ

① 一瞥する

② 一驚する

③ 一役買う

④ 一言もない

⑤ 一段落する

空欄Ⅵ

① 愛好

② 反省

③ 駆逐

④ 推賞

⑤ 優遇

空欄Ⅶ

① 依存

② 従属

③ 因果

④ 相関

⑤ 縁故

空欄Ⅷ

① 欺瞞

② 交渉

③ 葛藤

④ 協同

⑤ 恩恵

空欄Ⅸ

① 奔流

② 濁流

③ 伏流

④ 逆流

⑤ 亜流

問四

傍線部2「石川啄木」の作品を、次の①～⑦の中から二つ選びなさい。

① 『みだれ髪』

② 『歌よみに与ふる書』

③ 『土』

④ 『悲しき玩具』

⑤ 『病牀六尺』

⑥ 『一握の砂』

⑦ 『赤光』

問五

傍線部3「そうである」とあるが、これはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

① その分野で最後の芸術家と目された人物が亡くなっても、その仕事を受け継いでいく後継者が必ず登場する、ということ。

② その分野の研究者が研究するための資料がしっかりと保持されており、外国まで足を運ぶ必要はない、ということ。

③ その分野の研究が進まなければ、その仕事を継承する人物も現れず、伝統芸術の分野は瀕死の状態になりつつある、ということ。

④ その分野の仕事を受け継ぐ、若い後継者がなかなか出現せず、社会的に大きな問題になっている、ということ。

⑤ その分野の第一人者である最後の芸術家は、必ず後継者を育て、彼の仕事を後世にまで継承させる努力を惜しまない、ということ。

(19)

(20)

(21)

(18)

(17)

(16)

(15)

(14)

(13)

(12)

(11)

(10)

問六 傍線部4「それは誤りである」とあるが、それはなぜか。その説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

(22)

① ほぼ完全に西洋風の生活をしようとしている日本人にとっては、伝統的な日本の料理屋は、日本の他の地域では知られていない贅沢を手に入れることができる数少ない空間であるから。

② 伝統的な日本の料理屋は、過去を見物し、懐かしむような空間ではなく、現代に生きる日本人が、何に幸せを感じ、喜びを見出すのかを如実に示している空間であるから。

③ 日本人の中には、和服に興味がなく、米も嫌いなどと言う人々もいるが、そんな彼らが、日本で生活する喜びを実感できる空間は、伝統的な日本の料理屋しかないから。

④ 伝統的な日本の料理屋は、西洋の事物の便利さといにしえの日本以来身についたところ楽しさの混じり合った、「和洋折衷」の、東西の長所を体現した、掛け替えない空間であるから。

⑤ 伝統的な日本の料理屋は、その内部に、素朴で優雅な畳で覆われた床と、一幅の書画や生け花で趣向をこらした床の間がしらえられるなど、百年前とほとんど変わらない空間であるから。

問七 空欄 A 〃 D に入れるのに最も適切なことばを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つ選びなさい。

空欄 A ① そうすると ② だからこそ ③ また ④ 例えば ⑤ 言い換えると

(23)

空欄 B ① それ故に ② いわば ③ むしろ ④ そして ⑤ 逆に

(24)

空欄 C ① さらに ② かえって ③ それならば ④ なぜなら ⑤ しかし

(25)

空欄 D ① したがって ② このように ③ つまり ④ しかし ⑤ やはり

(26)

問八 傍線部7「^{よわい}齢四十」を意味する言葉を、次の①～⑦の中から一つ選びなさい。

(27)

① 弱冠 ② 不惑 ③ 喜寿 ④ 耳順 ⑤ 古稀^{こき} ⑥ 知命 ⑦ 而立^{じりつ}

問九 空欄

あ

に入る漢字と同じ漢字が

に入るものを、次の①～⑨の中から三つ選びなさい。

(28)

(29)

(30)

① 融

無碍むげ

② 蛇の

は蛇

③ 音信不

④ 待てば海

の日和あり

⑤

頭に迷う

⑥ 無理が

れば道理が引つ込む

⑦ 人生行

⑧ 朝に

を聞かば夕べに死すとも可なり

⑨ 言語

断

問十

傍線部8「このような本質的に異なった要素が結合したさまを目のあたりにすると……決まりきった忠告を口にする」とあるが、この点について筆者はどのようなことを述べているか。その説明として適当でないものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

(31)

① 西洋人は過去の事物をもつばら過去のものとして考える傾向があり、通常は十八世紀の衣服を着たり、驚ペンで字を書いたり、蜜酒を飲んだりすることはない、ということ。

② 和服を着た日本婦人は、要するに十八世紀の衣裳をまもっているのであって、それは椅子の上ではなく、床の上に座るように作られた衣裳なのである、ということ。

③ もし現代の日本人がもつと「論理的」だったら、彼らはとうの昔に、召し使いのいない時代向きで、バス旅行にもはるかに便利な衣裳を採用したはずである、ということ。

④ その外国人たちは、自らの主張を棄てて、高価で、着方も複雑、夏は暑苦しく、窮屈で、手入れも大変な衣裳に日本人の女性たちが今も夢中になっているという事実をこそ批判すべきである、ということ。

⑤ 日本人が過去の衣服や制度に対して抱いている愛着にほとんど独特のものがあることを、その外国人たちは理解できていない、ということ。

問十一

傍線部10「彼は現在の意識をもってはじめて、過去に帰ることができたのである」とあるが、これはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

(32)

① 鷗外が、医師としては、生涯の最後まで西洋の技術を体現しつづけた一方、精神的なことがらについては、ますます過去に引きつけられていったのは、乃木將軍と夫人の殉死事件という劇的な行為がなければありえなかった、ということ。

② 鷗外は、長い間暗黙のうちに伝統文学の価値を否定していたが、乃木將軍と夫人が明治天皇に殉じて自殺を遂げたという行為に深く心を動かされ、以後、古い道徳を称揚する小説ばかり書くようになった、ということ。

③ 鷗外が、一旦、過去の伝統と訣別した後で、古い道徳を称揚する小説ばかりを書くようになって、再び、過去に理想を見出すことができたのは、現代的な心理的洞察と、彼自身が好んで選んだ新しい文体を用いたからである、ということ。

④ 鷗外は、科学的学問と人文的学問双方に亘って伝統と訣別したという点で、珍しい人物であり、医師としては、生涯の最後まで、西洋の技術を体現しつづけた、ということ。

⑤ 鷗外が、先祖の名誉訓に従うことを選んだ百年前の武士の物語を書いているときに、彼がドイツ留学で身に付けた、現代的な心理的洞察と、彼自身が好んで選んだ新しい文体は役に立った、ということ。

Ⅱ

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(四〇点)

大島千明(旧姓、赤坂)は、放課後、小学校の用務員室で子どもたちに勉強を教えていた大島吾郎を見込んで、二人で小さな学習塾を開いた。結婚した二人は、子どもにも恵まれ、塾も、時代の求めに応じて成功、その規模を拡大した。しかし、二人は、塾の方針をめぐる対立、吾郎は、塾長の座を追われ、千明のもとからも離れた。塾の経営に邁進する千明であったが、体調を崩し、精密検査を受けたところ、悪性の腫瘍が見つかった。

退院の日、営業用のライトバンで千明を迎えにきたのは*₁国分寺だった。

入院中は一切仕事の話をもちださなかった国分寺に、病院の消毒臭からぬけだしてすぐ、千明は満を持して例の話を蒸しかえた。¹

「国分寺さん、改めてお願いするわ。もはやこの体もあてにならないし、何かあったときのためにも、塾長の座、あなたに継いでもらえないかしら」
ぶじに生還したあかつきには、まずは後継問題に

I

をつけようと心に期していたのだ。

国分寺もそれを感じとっていたのか、さほど驚いたふうもない。かといって、千明の打診を歓迎しているようにも見えず、眼鏡の奥の目は何も語らない。
[*₂蘭のことなら大丈夫よ。本当はあなたのこと、誰よりもあの子が認めているんだから。これからもいい刺激を与えてやってちょうだい]

「……………」

「もちろん私も、今後も陰ながら助力はさせてもらうわ。壁の汚れとか、サッシの埃とか、一度、テッテ^Aイテキにみがきあげたいと思ってたのよ」

「……………」

「私の時代はとうに終わった。ね、そろそろ、ただの掃除バアヤにさせてちょうだい」

²いくら言葉を重ねても、ハンドルをにぎる国分寺の表情は動かない。頑^{かたく}ななボーカ^{ボーカ}ーフェイスを守ったまま、ふいに「塾長」と千明をふりむいて言った。

「ご自宅へ戻られる前に、ちょっと本校へよっていきませんか」

「はい？」

「お目にかけたいものがありました」

留守中の職場が気になっていた千明には断る理由もなく、再び口を

Ⅱ

国分寺に導かれるまま、数十分後、約三週間ぶりに津田沼本校の門

をくぐっていた。

日中の校舎内に子どもたちの影はない。廊下ですれちがう社員たちから「お帰りなさい」と安堵^{あんど}の笑顔で迎えられながら、千明は人気のないほうへと国

分寺に連れられていく。

到着したのは二階の北端だった。

「補習室へ、なぜ？」

「しっ」

国分寺が人さし指を唇に当て、音を立てずにそろりとドアノブをひねる。十センチほど開かれたその隙間から見えてきたのは、生徒用の小さな座席に腰かけ、なにやら書きものをしている吾郎ごろうのつむじだった。

「え」

なぜ、あの人がここに？ いやいよ老眼が進行したかと疑う千明に、声をひそめて国分寺が言う。

「言うなと言われていましたが、塾長のお留守中、吾郎先生が補習授業を代わってくださいっていたんです」

「まあ」

「そうしたら、あつという間に、はまってしまったみたいで。吾郎ドリルの平成版とやらを作りはじめまして。昨夜なんて、ほとんど徹夜だったと思いますよ。もはや誰にも止められません」

たしかに、吾郎は二人のささやき声にも気づかず、
もかわらず、千明の目にはその姿が若かりし日の影と重なった。

用務員室の守り神。天性の教師。女の誘惑には弱い助平吾郎。

「ああいうところは、昔のままね」

「はい。もともとこの部屋は用務員室だったことをお伝えしたところ、吾郎先生、それならば用務員のジジイとして私を雇ってくれとおっしゃいました」

「あの人が、そんなことを？」

「しかし、残念ながら、今の千葉進塾には掃除バアヤと用務員のジジイと、余剰人員を二人も抱えこむ余裕はありません」
ですので、と国分寺はおもむろに襟を正して言った。

「つきましては、この際、吾郎先生に塾長の座へ戻っていただくというのはいかがでしょうか」

「はい？」

「大島吾郎に、塾長へ復帰してもらいます」

Ⅲ

に手書きのプリントと格闘している。髪は白み、肌の色は妙に黒々となっているに

一瞬、これも何かの冗談かと疑うも、その目は至極真剣だった。

「私はまだ四十五です。組織のトップに立つには、経験も、人間としての器も十分ではありません。せめてもう少し勉強させていただきたい。できれば、大島吾郎のもとで」

「国分寺さん……」

「もちろん、これは千葉進塾のためです。吾郎先生にはいまだ根強いシンボウ^B者がいる。うちが再び大島吾郎の看板を掲げたら、かつて彼のクントウ^Cを受けた教え子たちの多くは、我先にと自分の子どもを彼に託そうとするでしょう。社内の

IV

も高まります。塾長のご病気でしゅんとなってい

る古株たちも、きっと元気をとりもどしますよ」
どうかお願いしますと頭をさげられ、千明はぼうつと虚空を仰いだ。吾郎が塾長の座に戻る。夢にも思わなかった展開だ。はたしてそんなことがありえるのか。

「でも……あの人、やるって言うかしら」

「私からお願います。引きうけていただけるまで、何度でも」

「でも……あの人、お金の計算ができないわよ」

「はい、それは重々承知していますから、私とカンパ^Dで万全のフォローをしていきます」

「でも……」

「塾長」

三度目の「でも」を阻んだ国分寺が千明の瞳に問うた。

「率直にうかがいます。吾郎先生がうちに戻ってきたら、あなたは嬉しいですか、嬉しくないですか」

ずばり投げかけられた

V

に、迷う間もなく千明は反射的に動いた。

「バカ言わないで」

⁵ こぶしをかたくし、目をつりあげて国分寺を一喝したのだ。

「嬉しくないわけじゃない」

嬉しくないわけがない。吾郎がこの学舎にいるのを見ただけで、こんなにも、とても現実とは思えないくらいに嬉しいのに。

声に出さずにつぶやくと、近ごろ弱くなった涙腺がまたゆるみ、国分寺の満面の笑みが歪^{ゆが}んだ。

人生はどう転ぶかわからない。千明がそれを改めて痛感したのは、その夜、津田沼の自宅で開かれた退院祝いの席だった。

*₃ 落子、蘭、吾郎、*₄ 一郎、杏。いつもの顔ぶれによる身内の会と聞いていたにもかかわらず、リビングのテーブル狭しと落子の手料理をならべた宴席には、千明の知らない顔も混ざっていた。

蘭の横できちようめに正座をしている小太りの童顔男。ぷくぷくとした肉感が心地いいのか、日ごろは客に人みしりをするピンキーが、その太股ふとももにちょこんとのつて動かない。

「佐原修平」

千明の退院を祝した乾杯のあと、満座の好奇心に

あ

手を打つように、蘭が男を紹介した。

「私の彼氏です」

ぶはつと一郎がジンジャーエールを吹きだし、吾郎が箸でつまみかけていた芋の煮つけを落とした。ほかの者たちも頬をつねったり、咳せきこんだり、老眼鏡を探したりと一様に

VI

「いるわよ、私にだって、男の一人や二人」

皆の反応にむくれながらも蘭が打ちあげたところによると、佐原修平は某老舗生花店の御曹司。教場を彩る花の年間契約を通して二人は知りあい、親密になり、オーキッドクラブを畳んでからという条件つきで蘭がプロポーズを受諾した。

「結婚？」

これには再び全員がのけぞった。蘭は結婚など興味がないと誰もが信じて疑わなかったのだ。

しかし、ギョウテンEしきりの一同をよそに、当の修平は赤くなってデレデレしているのだから、男と女はわからないものである。

「あの、お花屋さんの御曹司ってことは、ゆくゆくは跡取りに？」

はたと現実^{あいきょう}に立ちかえったらしい吾郎の問いに、いいえ、と修平は愛嬌のある丸顔をゆらした。

「ぼくは次男坊ですから、今後も永遠のナンバーツーってところです」

「ああ、次男坊」

「ちなみに、上には兄が一人に、姉が二人います」

「四人きょうだいの末っ子ですか」

「はい。ちなみに、蘭さんよりも四つ年下です」

「修平、よけいなことまで言わなくていいよ」

「なるほど。年下」

「お兄ちゃん、年下の男だって」

「ぶぶ」

「ちなみに、初デートは葛西の臨海水族園で、帰りにマグロ定食を……」

「黙れ修平！」

こんなお坊ちゃん然とした男に蘭を懐柔できるのか。もしや新手的結婚詐欺ではあるまいか。最初のうちは半信半疑だった千明も、修平と皆のやりとりを聞くにつれ、意外と蘭にはいい相手かもしれないと思いはじめた。家族の奇異のまなざしも、蘭の威嚇も、上質そうなズボンにくつつくピンキーの毛も、何ものも意に介さずにおつとりと笑っている。吾郎をもしのぎかねないのんきなたずまいに、赤坂の血を継ぐ女の琴線をくすぐる天分を垣間見たのである。このくまのプーのような存在があつてこそ、蘭は前髪という鎧を脱ぐことができたのかもしれない、と。

しみじみと感慨にひたる千明をよそに、緊張のほぐれた宴席は刻々と賑わいを増していく。蘭をからかうように二人のなれそめを追及する露子に、まだ気が動転しているのか、やたらとビールが進む吾郎。

Ⅶ

目で修平をながめつつ、卓上の酢豚や春巻をががつとたいらげていく一郎と杏。かつての断絶を感じさせない平らかな家族の団欒がそこにはあった。

ここに、[＊]純さんさえてくれれば。ふと上田の顔が頭をかすめた瞬間、たまらなくこみあげてくるものがあり、千明は「ちょっと、失礼」と手洗いに行くふりをして

い

座した。

（森絵都『みかづき』より。ただし出題の都合上、表現を一部改めた箇所がある）

注1 国分寺：千葉進塾、事務室長。

2 蘭：千明の次女。勝ち気な性格。千葉進塾の仕事を手伝っていたが、独立し、オーキッドクラブという個別指導型の塾を立ちあげるも、講師の不祥事で、塾の閉鎖を決意。

3 露子：千明の長女。吾郎との血のつながりはないが、吾郎を強く慕う。 4 一郎、杏：露子の長男、長女。

5 純さん：上田純。元千葉進塾講師で、吾郎を慕う。吾郎が塾を辞めた時に同時に辞職。後、露子と結婚し、一郎、杏が生まれるが、病気で死去。

問一 二重傍線部A～Eのカタカナを漢字で書いたときに、その漢字と同じ漢字をふくむものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つ選びなさい。

A ① 土地をテイトウに入れる

(33)

② トウテイ見込みがない

③ 業務をテイケイする

④ 条約をテイケツする

⑤ ヘイシンテイトウ

B ① 多くの課題をホウガンする

(34)

② ホウシヨ紙

③ 寺社のホウモツ殿

④ カホウは寝て待て

⑤ ごホウビをあげる

C ① シュウトウな準備

(35)

② 意気トウゴウ

③ 商工会議所のカイトウ

④ セイトウな継承者

⑤ 自己トウスイ

D ① 厚労省のシヨカン

(36)

② 高校野球のカントク

③ カンリヨウ主義

④ サイカンに富む

⑤ 平野をカンリユウする川

E ① 皇室テンパン

(37)

② メールにテンブして送る

③ テンラク事故

④ テンテキ注射

⑤ コウテンテキな性質

問二 傍線部1「蒸しかえした」、傍線部3「抱えこむ」、傍線部4「おもむろに」、傍線部6「懐柔できるのか」の本文中の意味として最も適当なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つ選びなさい。

- | | | | | | |
|------|--------------|-------------|------------|-------------|-----------|
| 傍線部1 | ① 何度も言った | ② もう一度問題にした | ③ 暴き立てた | ④ 混乱させた | ⑤ どんどん進めた |
| 傍線部3 | ① 引き立てる | ② 引き合わせる | ③ 引き留める | ④ 引き受ける | ⑤ 引き戻す |
| 傍線部4 | ① 上品に | ② 静かに | ③ 丁寧に | ④ さり気なく | ⑤ 不意に |
| 傍線部6 | ① 言い聞かせられるのか | ② しつけられるのか | ③ 自由にできるのか | ④ 手なずけられるのか | |
| | ⑤ 制御できるのか | | | | |

問三 空欄 I Ⅶ に入れるのに最も適当なことを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つ選びなさい。

- | | | | | | |
|--------|-------------|-----------------------------|-------------------------------|------------------------------|--------------------------------|
| 空欄 I | ① 知恵 | ② 目 | ③ はずみ | ④ けり | ⑤ 折り紙 |
| 空欄 II | ① 固めた | ② 濁した | ③ つぐんだ | ④ はさんだ | ⑤ 覆った |
| 空欄 III | ① 得意顔 | ② 一心不乱 | ③ 押っ取り刀 | ④ 好き放題 | ⑤ 虚心坦懐 <small>きよしんたんかい</small> |
| 空欄 IV | ① 士気 | ② 血気 | ③ 空気 | ④ 和気 | ⑤ 英気 |
| 空欄 V | ① 変化球 | ② 直球 | ③ 見せ球 | ④ 牽制球 <small>けんせいきゅう</small> | ⑤ 隠し球 |
| 空欄 VI | ① 平常心を失っている | ② 前後不覚に陥っている | ③ あれこれ気を回している | | |
| | ④ 拍子抜けしている | ⑤ 熱に浮かされている | | | |
| 空欄 VII | ① 慰み半分の | ② 砂を囓 <small>か</small> むような | ③ 左団扇 <small>ひだりうちわ</small> の | ④ 鬼の首を取ったような | ⑤ 興味津々の |

問四 傍線部2「いくら言葉を重ねても、ハンドルをにぎる国分寺の表情は動かない」とあるが、このとき国分寺はどのような気持ちであったか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 大病をして、体力、気力の衰えを訴える千明の気持ちも分からないではないが、傾きかけた塾を立て直すには、千明の塾長復帰以外はありえないのだから、何とか千明を翻意させたい、という気持ち。
- ② 塾長の座を自分に譲るという千明の提案は、ある程度予想されましたが、実際に打診してみると、どう返事をすれば良いか分からず、困って

いる自分の動揺を千明に悟らせてはならない、という気持ち。

③ 少なくとも現時点で塾長の座を引き受けることは、自分にとって何のメリットもなく、しばらく時間を稼ぐために、吾郎を再び塾長として担ぎ出し、自信を失った千明を勇気づけよう、という気持ち。

④ 塾のためには、自分が後継者に就くよりも、吾郎の復帰が何よりも必要なことであるが、やる気を失っている千明を励ます術が思い当たらず、情けない、という気持ち。

⑤ 病気をしてさしもの千明も弱気になっているようだが、塾のためには、自分が塾長を継ぐよりもっと良い策があり、この腹案を千明に示すことで、彼女も再び気力を取り戻すのではないか、という気持ち。

問五

空欄

あ

い

に入る漢字と同じ漢字が

に入るものを、次の各群の①～⑨の中からそれぞれ三つ選びなさい。

空欄あ

①

半人

の力しかない

②

門

市を為す

③

急

鋒

④

天秤

をかける

⑤

見の明

⑥

舌

三寸

⑦

空

絶後

⑧

一刀

断

⑨

千

役者

空欄い

①

身から

た錆

②

馬評が高い

③

忙

閑あり

④

死

に活を求める

⑤

灯台

暗し

⑥

自家薬籠

の物

⑦

神

鬼没

⑧

李

に冠を正さず

⑨

青は藍より

でて藍より青し

(53)

(54)

(55)

(50)

(51)

(52)

問六 傍線部⑤「こぶしをかたくし、目をつりあげて国分寺を一喝したのだ」とあるが、それはなぜか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

(56)

① 既定路線であつた吾郎の塾長復帰を、自分に内緒で画策していた国分寺のやり方には問題があり、かえつて、吾郎の復帰を妨げてしまうことになると思つたから。

② 吾郎が塾長に復帰する上でクリアしなければならない、いくつかのハードルについて、国分寺の考えがあまりにも安易で、せっかくの妙案が台無しになってしまうと危惧されたから。

③ 吾郎が塾長に復帰することについて、嬉しいか、嬉しくないかという個人的な感情の問題を持ち出してきた国分寺のやり方があまりにも稚拙であつたから。

④ 吾郎の塾長復帰について、率直な思いを尋ねてきた国分寺の問いが、自分にとっては答えの決まっている、あまりにもくだらない問いかけであつたから。

⑤ 吾郎がこの学舎にいるのを見ただけで、夢のような気持ちになるほど嬉しいのに、慎重な国分寺の物言いが小癩こしゃくに障り、高ぶった気持ちを抑えられなかったから。

問七 傍線部7「最初のうちは半信半疑だった千明も、修平と皆のやりとりを聞くにつれ、意外と蘭にはいい相手かもしれないと思いはじめた」とあるが千明はなぜそのような気持ちになったのか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

(57)

① 結婚になど興味はないと誰もが信じて疑わなかった蘭をその気にさせたのは、老舗生花店の御曹司という育ちの良さだけでなく、無遠慮な質問にもそつなく答える、その抜け目のなさにあると思われたから。

② 家族に奇異な目で見られても氣にもとめず、答えにくい質問にも愛嬌ある笑顔で対応できる修平であれば、仕事の上でも蘭を支えてくれる頼もしい存在になってくれるだろうと思われたから。

③ 修平ののんきさは天性のものとばかりも言えないが、万事飾り気のない男に惹かれる女系の血を受け継いだ蘭の気持ちをつまえたのも仕方がないと思われたから。

④ 修平は、老舗生花店の御曹司にありがちなプライドの高さ、嫌みとは無縁の、とても大雑把おおざっぱな性格で、プライドの高い蘭には、彼のような真逆のタイプの男がぴったりだと思われたから。

⑤ 気後れしてしまいそうな状況にも動ずることなく、鷹揚おつように構えている修平だからこそ、結婚に興味も示さず、仕事に打ち込む蘭の気持ちをほぐすことができたのだと思われたから。

ご注意

1. 本書の一部あるいは全部について，発行者の許可を得ずに，無断で複写・転写することは禁じられています。
2. 本書の内容に誤り・誤字脱字などございましたら，ご連絡いただけると幸いです。

2020/7/1

発行・制作:広島国際大学入試センター

連絡先:739-2695 広島県東広島市黒瀬学園台555-36

TEL: 0823-70-4500 FAX: 0823-70-4518

Mail: HIU.Nyushi@josho.ac.jp

URL: <https://www.hirokoku-u.ac.jp/>

Copyright © 2020 Hiroshima International University, All rights reserved.
